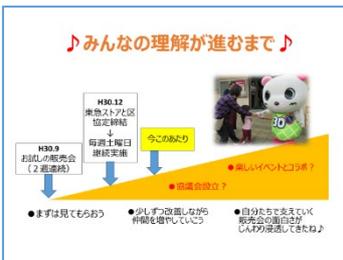


「高山土曜ストア」@市営高山団地集会所がスタート！

応募チーム名：チーム「高山土曜ストア」 自治体：神奈川県川崎市宮前区

(特徴)

今回のアイデアを考案したチームが住む川崎市営高山団地は高台にあり、以前団地内にあったスーパーも撤退して日常の買い物には急坂を利用して大通りのスーパーまで行く必要がある。この団地には高齢者（高齢化率 52.6%）も多く、住民にとって、日常の買い物の大変さを少しでも和らげるために、団



地の自治会有志が、集会所を利用して、（株）東急ストアの協力を得て、土曜販売会を始めた。団地集会所を民間スーパーに開放する区と企業間の協定締結など、ここに至る苦労も様々だったが、さらに始めてみると、半世紀ほど前に作られた公営団地は 5 階建てでもエレベータのないのが通常であり、高齢者にとっては荷物を持つての階段の昇降も大きな課題であることがわかってきた。また、協力する民間スー

パーから見ると採算性の維持が不可欠である。こうした中、「高山土曜ストア」の持続的成功の暁には、全国で同様の買い物に苦勞する高齢者の支え合いのモデルケースとなることを期待する。

(アドバイス)

1. 高山土曜ストアの利用者の拡大とコミュニティ形成

利用者の平均人数は毎回 50 人前後です。団地全体では 600 世帯ほどあり、近隣の学生や市民グループなどと連携して団地住民の買いもの実態の自主的調査を踏まえて、集会所に近い棟から利用者を少しずつ増やしていくための工夫に知恵を絞っていただければと思います。また、高層階の高齢者の買い物支援については、団地住民のボランティアによるお手伝いの体制ですが、地域に住む市民や学生との連携などの検討もよいかと思ひます。双方にとって地域を知る機会となり、市民や若者と高齢者も交えてのイベントの企画でコミュニティ形成の意欲がさらに出てくる可能性もあります。

2. ストアにとっての採算性向上

（株）東急ストアにとっては、目下は販売補助員を一人派遣してぎりぎりの採算ラインのようですが、近隣の高齢者団地での協力販売会を進めることにより、採算性を向上させ、これからの高齢化社会におけるスーパーの在り方の一つの展開事例として、育てていって欲しいと思っております。

3. 土曜ストア運営側の体制の独立と強化

高山団地土曜ストアでは最近、自治会から独立して、参加住民による協議会が発足しました。これは見方をかえれば土曜ストア運営の強化であり、ここに例えば今後、地域の若者や学生へのインセンティブとして、ストア運営の実体験の場としての活用できないか、その結果として若者も交えて運営改善の知恵を絞っていくきっかけにもなるのではないかと期待します。

4. 区役所の持続的支援

高山団地がここまで実現できたのも区役所職員による地域づくり一環としての協働的支援が大きかったと思ひます。これからは住民のボランティアによる協議会が中心となって高山団地土曜ストアの運営が進んでいくと思ひますが、この成り行きを見守り、住民だけでは難しい市民や若者とのマッチングの支援なども地域のプラットフォームとしてチャレンジしていただければと思ひます。